

道の駅への期待

岩手医科大学医学部 災害医学講座特命助教 藤原弘之

日本 D M A T (Disaster

Medical Assistance Team)

は、災害時に一人でも多くの命を助けるため2005年に発足した組織です。阪神・淡路大震災の教訓から、医師が災害現場で医療を行う必要性が認識されました。全国のDMAT指定医療機関に勤める医療スタッフによって構成され、災害発生時には全国1万人近い登録者の中から派遣される医療チームが活動します。

東日本大震災の際は、岩手県にも震災直後から19日間で約130チームが被災地支援のため、全国から集まりました。こうした場合に、特に重要なことは、交通機関や通信網が寸断された被災地で、出来るだけ速やかに必要な場所に医療チームを配備することです。

そのためには被災地がどのような状況にあるかを正確に把握する必要があります。「情報」がとても重要です。私自身、東日本大震災時には、DMATの一員と

災害時、道の駅とDMAT医療の連携こそ



して、全く情報が得られない被災エリアにヘリコプターで行き、現地情報収集をした経験があります。

このときほど情報の重要性を感じたことはありません。これらの経験から、災害時の通信網整備はどうあるべきかを検討するため、衛星通信の大手、スカパーJ S A T との共同研究も開始しました。

道の駅は、災害時ロジスティック活動の拠点の一つと考えています。災害時に資材・人材・情報の集積地となることで、被災拠点への速やかな資材・人材配備を実現し、私たち医療スタッフが、より多くの命を助けることができるように環境整備されることを願い、今後さらに道の駅と医療の連携が進むことを期待しています。

■お知らせ

「道の駅への期待」は第2ステージに入った道の駅に対し、「わが社は道の駅でこんな事業を展開したい」「道の駅をこんな風に使っては」などのアピールを、主に企業や各種団体などに提案してもらうコーナーです。その会社などを代表して、「個人」の考えをベースに持論を展開してもらいます。掲載希望の会社や団体は、本紙編集部 (info@route-press21.jp) までご連絡ください。